



新潟病院BLS活動の紹介

新潟病院

国立病院機構新潟病院では2009年4月から日本救急医療教育機構の指導・協力のもと、職員向けにアメリカ心臓協会（American Heart Association：AHA）の一次救命処置（Basic life support：BLS）の講習会を開催してきました。年間10～12回の講習会で、各回10名前後の職員が受講しており、これまで医療スタッフだけでなく、コメディカル・事務職員も含めて数多くの職員がBLSヘルスケアプロバイダーを取得してきました。2011年から院内の職員がBLSインストラクターの研修を受けており、現在11名の職員（医師1名、看護師7名、リハビリテーションスタッフ3名）がBLSインストラクターとして活動しています。BLSヘルスケアプロバイダーの取得者が増えるにつれ、患者様が急変した際、緊急コールにより院内各所からより

多くの職員が駆けつけ、より迅速でかつ質の高い救命処置が行われるようになりました。

また、市民への啓蒙活動の一環として、小学校5・6年生を対象としたBLSの講習会も開催しています。「命の大切さ」を学ぶことの一つとして、子供のうちからBLSに対する意識を持つ



講師：木下医師



デモンストレーション



人が倒れています！誰か来てください



胸骨圧迫交代 お母さんと



AED 操作 ショックボタン押します



受講証授与



集合写真

てもらうことを目的としています。昨年で4回目の開催となりましたが、前回（8月10日）は小学生6名とその保護者に参加いただきました。講習会では胸骨圧迫とAEDを体験してもらっています。BLS訓練用の人形に対し、強く・速く・絶え間ない胸骨圧迫の方法や、AEDの使用方法を伝えています。どの子どもとも上手に胸骨圧迫を行い、AEDを操作できるようになっていきま

す。非常に優秀な「バイスタンダー」になってくれるものと思います。

院外の心停止症例に対し、バイスタンダーCPR（その場所でそこにいる人が行う救命処置）が行われるかどうか非常に重要なわけですが、BLSを行うことのできる人たちが一般市民の中でも増えていき、ひとりでも多くの命が救えるようになることを願ってやみません。